

平成22年度 【 学園研究費助成金<A> 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ マツヤマ チエコ
氏名 松山 智恵子

研究期間 平成22年度

研究課題名 ICT活用による地域連携型メディア教育の研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	松山 智恵子	文化情報学部	助教
研究分担者	柄窪 優二	文化情報学部	教授
研究分担者	脇田 泰子	文化情報学部	准教授

1. 本研究開始の背景や目的等

YouTubeなど動画サイトの急速な広がり、インターネットでの映像利用。いま情報通信技術(ICT)を活用した情報発信が極めて重要になっている。しかし日本の大学教育では映像制作・Web情報発信を軸にした次世代型メディア教育は手探りの状態で、早急な対応が求められている。そこで本研究では、ハイビジョン映像制作とWeb情報発信を軸に、街づくりや市民交流、国際交流を視野に入れた総合的なメディア教育を実践し、学士力の確保や職業的自立能力の向上を目指す次世代型の教育体系を確立しようというものである。本研究は来年度新設されるメディア情報学科の専門教育課程の基盤を支えることを目標に教育実践を試みる。

2. 研究方法等

地元の企業や行政と連携して、地域に貢献する映像作品を企画・制作し、それをWeb情報発信するまでの総合的なメディア教育を実践する。これは卒業研究や少人数の演習ゼミで課題探求能力を育成する形で指導して、学生の職業的自立に必要な能力を培う。こうした教育実践プロセスや成果について、学生や連携先の企業・行政等の担当者にアンケート調査して、映像制作を軸とした地域連携型メディア教育の問題点や課題を分析・評価する。連携先は、名古屋市東山動植物園、名古屋港水族館、中部電力、劇団四季、日本介助犬協会、戦争と平和の資料館「ピースあいち」を予定している。

3. 研究成果の概要

これまで映像制作指導のための教材ビデオの開発やシラバスなど教育方法の工夫改善を行ったうえで、地域の企業や行政等と協力・連携して映像作品を制作し、それらを大学・学部サイトで段階的に公開してきた。その上で、本研究では地域と連携して映像作品を企画・制作し、Webで情報発信するまでの総合的なメディア教育を実践した。

映像作品は中部電力（株）と連携した「内ヶ谷の森の輝き！～女子大生が自然体験」13分30秒、中京テレビ・東山動植物園と連携した「東山動物園 ナイト ZOO&GARDEN」3分22秒、日本介助犬協会・訓練センターと連携した「介助犬が育つまで～シンシアの丘 訓練物語」17分30秒、愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウン・本学生活科学部村上研究室との共同制作で「42年目！宝人たちの挑戦～高蔵寺ニュータウン物語」27分などがある。また、中日新聞社と連携した「参院選・立候補者討論会」はテーマ別に5本（約7分）を制作し、新聞社のWebサイトで公開した。このように大学が新聞社と協力し動画制作したものを新聞社の記事とリンクする形で討論会動画を新聞社のWebサイトで公開したのは日本では初めての試みである。

Webでの映像公開は学部サイトの「学生制作の動画公開」ページで行っているほか、連携先の公式サイトで公開された。連携先でのアクセス数は中日新聞が16日間で966件、中京テレビが40日間で1800件であり、好評であった。一方、学部サイトでのアクセス数は、Google Analyticsのアクセス解析ツールを利用した解析の結果、介助犬の動画がH22.11.18公開からH23.2.20現在105件、英語版戦争体験動画がH22.9.23公開から92件、東山動植物園「人とクマの共存」動画がH22.9.8公開から73件であり、アクセス件数は多くはない。そのなかで、高蔵寺ニュータウンの動画はH23.1.21公開から1,333件と他に比べかなり多いアクセス数であった。その理由としては社会的に関心のあるテーマであることや新聞等でも取り上げられたことが考えられる。

動画を活用したWebでの情報発信は、企業や行政等も動画サイトを利用するなどここ数年で大きく変化し、ある程度の知識と技術、PC環境があれば誰でも動画による情報発信が可能になってきた。教育現場においても映像コンテンツを活用し、Webでの情報発信を体系的に学べる環境を整備することが望まれる。本研究ではその第一歩として映像コンテンツを活用し東山動植物園を疑似体験できるWebサイトの企画・制作に取り組み始めた。現在Webサイトの制作指導の方法を模索しながら、制作を進めている。このような地域と連携したコンテンツ制作の場合、制作したものに一定程度のクオリティが求められており、そのための制作能力を養成するために、今後も引き続き教育方法等の整備を進めていき、来年度新設されるメディア情報学科の専門教育課程の基盤づくりに貢献していきたいと考えている。

4. キーワード

① メディア教育	② 地域連携	③ 映像制作	④ Web情報発信
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

梶窪優二、「インターネット時代の映像メディア研究－地域連携プロジェクトからの報告－」、梶山女学園大学文化情報学部紀要、第11巻 掲載予定